

那須塩原市産ワインを活用した  
サーキュラーエコノミーに資するビジネスモデルの検討業務  
報告書

2026年3月19日

# 目次

## 1. 事業概要

- 1-1. 本報告書の目的... 4
- 1-2. 本事業の位置づけ... 5
- 1-3. 本事業の概要と検証テーマ... 6
- 1-4. 本事業の意義... 7

## 2. プロジェクト全体設計

- 2-1. プロジェクト全体像... 9
- 2-2. ステークホルダー... 10
- 2-3. プロジェクト体制... 11
- 2-4. 製品バリューチェーン... 12
- 2-5. 資源循環モデル... 13
- 2-6. ビジネスモデル・収益構造... 14
- 2-7. ブランド設計・クリエイティブ... 15~16

## 3. 実施内容

- 3-1. サーキュラーエコノミーの実装... 18~21
- 3-2. 染物実証・製品開発... 22~34
- 3-3. 製品の販売検証... 35~45
- 3-4. 体験イベント... 46~61
- 3-5. 周遊クーポン・特典... 62~63

## 4. 成果と評価

- 4-1. 事業全体の成果... 65
- 4-2. 各事業の評価... 66~67
- 4-3. 本事業の本質的成果... 68
- 4-4. メディア掲載クリップ... 69~72

## 5. まとめ

- 5-1. まとめ：総括と本事業の到達点... 74~75

# 1. 事業概要

本報告書は、「那須塩原市産ワインを活用したサーキュラーエコノミーに資するビジネスモデルの検討業務」の取組内容・成果・検証結果を整理し、事業全体の到達点を報告するものである。

本事業では、資源循環による環境負荷の軽減と、それを基盤とするビジネスモデルの成立可能性の両立を主要な検証テーマとした。報告書では、実際に構築・実装した資源循環モデル、製品開発、販売スキーム、体験イベントの内容を総合的に整理し、その成果と課題を明らかにする。

### 仕様書：「業務の目的」より

本市では、令和5年度に「2050 Sustainable Vision 那須塩原～環境戦略実行宣言～」を公表し、「ネイチャーポジティブ」、「カーボンニュートラル」、「サーキュラーエコノミー」を3本柱とした、それらの相乗効果を活かした環境施策を進めている。そのうちの一つサーキュラーエコノミーとは、資源を有効利用することで、環境負荷の低減を図り、かつ、当該取組を通じて製品等の付加価値を創出する経済活動のことである。付加価値の創出に当たっては、市独自の視点によるアプローチが重要となる。

そこで、本業務では、「なすしおばらワイン特区」（令和2年度内閣総理大臣認定構造改革特別区域計画）としてまちづくりを進めている点に着目し、市産のワインを活用したサーキュラーエコノミーの民間自立型ビジネスモデルの実現可能性について検討を行うことを目的とする。

本事業は、単なる商品開発や単発のイベント実施ではなく、資源循環を軸とした地域発のビジネスモデルを検討する実証型プロジェクトとして位置づけられる。

那須塩原市が掲げる環境政策の方向性を踏まえながら、市産ワインという地域資源を起点に、環境価値、地域価値、経済価値を同時に立ち上げることを目指した。

そのため本事業では、資源循環の仕組みそのものを構築するだけでなく、それを製品、体験、販売、観光接点へとつなげることで、持続可能なモデルとして成立するかどうかを検証した。



本事業では、以下の4つの領域を相互に連動させながら検証を行った。

## 【本業務の目的】

### サーキュラーワインを活用した民間自立型ビジネスモデル検証

市の産業と資源を活用し、持続可能なサーキュラーエコノミーモデルを確立することで、環境負荷を低減しつつ、民間自立型ビジネスモデルの実現を目指す。

①

#### サーキュラーエコノミー



アパレル製品の製造過程で生まれたウール由来の有機肥料をワイナリーで活用し、資源循環を構築します。

②

#### 染物実証 / 製品開発



PIZZA DAYのパートナー企業と連携し、ワイン残渣を活用した染料および製品の開発と検証を実施します。

③

#### ワイン・染物の販売検討



PIZZA DAYの製品・コミュニティ・販売チャネルを活用した付加価値創出と効果的な販売手法を検討します。

④

#### イベント開催



本業務をベースとしたイベントにPIZZA DAY独自コンテンツを加え、立体的で深みのあるイベントを実施します。

これら4つの施策を一体的なモデルとして設計したことが本事業の特徴である。

本事業は、以下の3つの観点において意義を有する。

### 環境価値の創出

廃棄ウールとぶどう搾りかすという未利用資源を活用し、2つの資源循環モデルを構築した。これにより、廃棄物の削減や環境負荷の軽減に加え、循環そのものを新たな価値として立ち上げる取組を実装した。

### 地域ブランドの確立と効果

「めぐるWA!」というプロジェクト名のもと、循環を軸とした統一的なブランド設計を行った。単なる製品販売ではなく、那須塩原ならではの自然、ワイン、農業、ものづくりをつなぐ文脈を可視化し、地域独自のブランド価値の形成を図った。

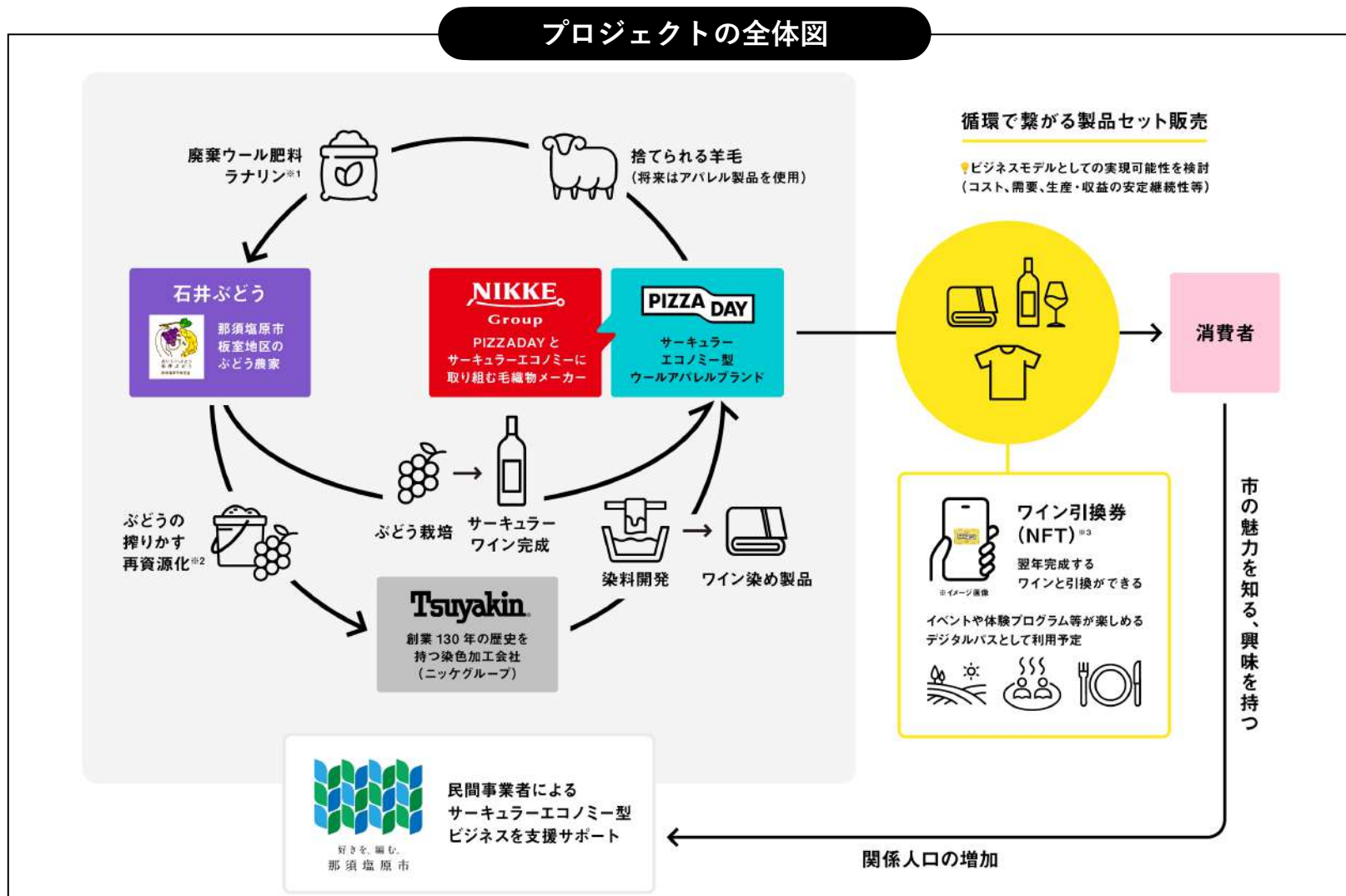
### 地域産業の振興と市場創出

ワイン、アパレル、染物、観光を横断的に接続することで、地域内の複数産業が連動する可能性を検証した。さらに、デジタルパスによる来訪特典やクーポン設計を通じて、購入を地域来訪や観光消費へ接続する仕組みを構築し、地域内消費の創出可能性を探った。

## 2. プロジェクト全体設計

## 2-1. プロジェクト全体像

本事業は、資源循環、製品開発、商品販売、体験・観光の4要素を統合した構造で設計した。各施策を単独で実施するのではなく、「循環 → 製品 → 体験 → 消費」の一体設計とすることで、環境価値を経済価値へ転換するモデルの検証を行った。



本事業は、自治体、民間事業者、消費者が連携する取り組みとした。

### 【自治体】

那須塩原市 環境戦略部 サーキュラーエコノミー課

### 【民間事業者】

Spicelink (PIZZA DAY) ・石井ぶどう、ニッケグループ、艶金

### 【協力・支援パートナー】

那須千本松牧場、塩原温泉湯っ歩の里、もみじ谷大吊橋、道の駅 明治の森・黒磯  
那須塩原市観光局、ゲストハウスLeu.

### 【消費者】

製品購入者、体験参加者

本事業は、下記の企業パートナーとの連携によって実施運営した。



**Spicelink** 全体統括 / プロジェクトマネジメント

株式会社Spicelink  
プロジェクト責任者：代表取締役 高田 基以

- 全体統括、プロジェクトマネジメント
- プロジェクト・ブランドディレクション、業務推進管理

**NIKKE Group** サークュラーエコノミー / 製品開発

日本毛織株式会社 / サークュラーエコノミー協力  
株式会社ニッケテキスタイル / アパレル製品開発

**Tsuyakin** ワイン残渣 染物実証

株式会社艶金 / 染物の染料開発、検証調査、製品開発

**LEAPS** Web制作 / システム開発

株式会社LEAPS / webシステム開発、ブロックチェーン開発

**sora** ブランディング / クリエイティブ

**AO CHAN**

株式会社sora / グラフィック制作、アートディレクション  
株式会社AO CHAN / コピーライティング、ブランディング

本事業におけるバリューチェーンは、アパレル製品とのこり染製品の2系統に整理できる。

### ◆アパレル製品

企画は那須塩原で行い、原料調達・製造はニッケグループが担い、その後PIZZA DAYが製品化し、ECおよび体験との連動を視野に販売を行った。



### ◆のこり染製品

企画は那須塩原で行い、ぶどう搾りかすを活用した染色加工を艶金が担い、その後PIZZA DAYが製品化し、ECでの販売を行った。



本事業における資源循環のフローは、廃棄ウールの再資源化とぶどう残渣の再資源化。

### ◆ウールのサーキュラーエコノミー

アパレル製品から生まれる廃棄ウールを肥料として再資源化し、ワイナリーで活用した。



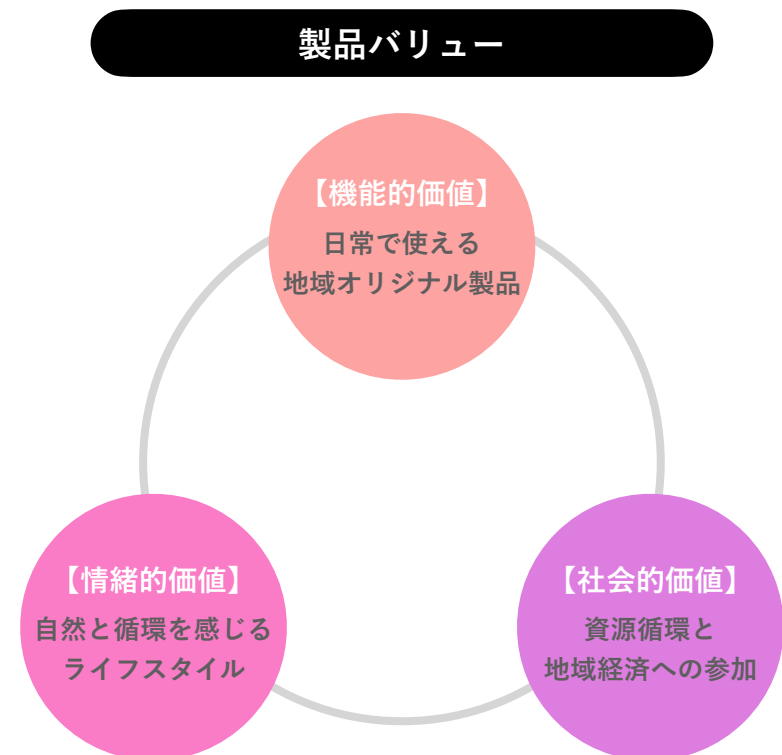
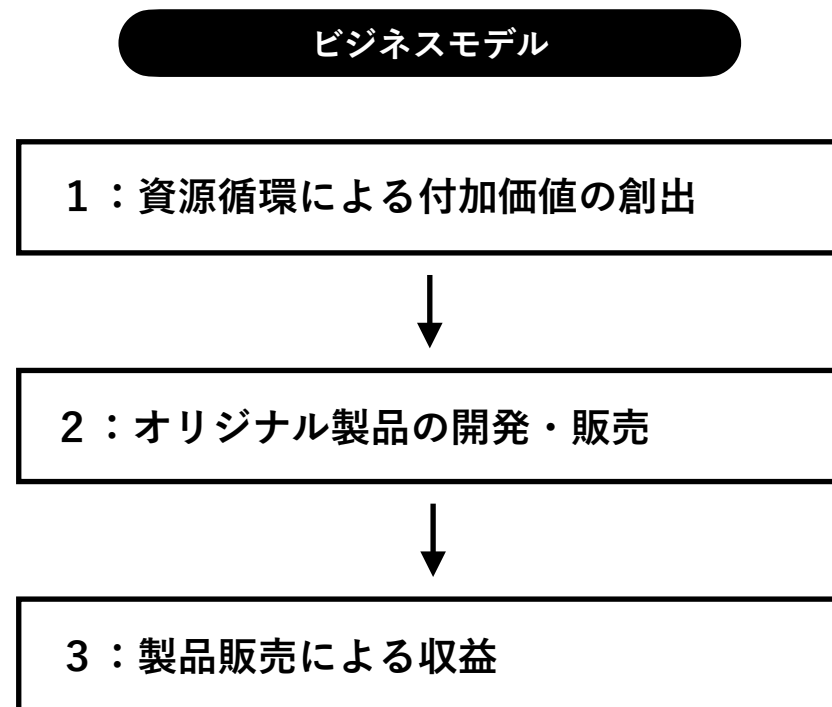
本事業におけるウールの資源循環については、現行の規制を踏まえ、使用済み衣料由来の肥料は用いず、牧場由来の廃棄予定だった羊毛を活用した。これは、将来的に「衣料 → 肥料 → 農業」へとつながる本来の資源循環モデルの実現を見据えた、実証段階での対応である。

### ◆ぶどう残渣のアップサイクル

那須塩原市内で生まれたぶどう残渣（搾りかす）を染料として活用し、グッズを開発した。



本プロジェクトにおける収益構造は、「商品販売」を中心としたシンプルな構造である。具体的な収益源は、ワインとTシャツを組み合わせたセット商品をはじめ、アパレル製品、のこり染製品商品である。



本事業では、循環の仕組みを単なる説明資料にとどめず、生活者が直感的に理解できるように、クリエイティブとブランド設計を重視した。

### プロジェクト クリエイティブコンセプト

【ウールとワインと那須塩原のWA！】

資源がめぐること、人と地域がつながること、  
那須塩原ならではの和や循環のイメージを統合的に表現した。



プロジェクト ロゴ

## プロジェクト webサイト

ABOUT MEMBERSHIP SHOP PRODUCT EXPERIENCE CONTACT Wa!

ウールと  
ワインと  
那須塩原の  
Wa!

ぶどう  
のこり染、  
販売中!

めぐる Wa!  
つながる Wa!  
ワクワク繋ぎの Wa!

自然と人の想いがギュッと詰まった「めぐるWa!」セット

ウールとワインを育てる、ウールを着て那須塩原を楽しむ。

「いつか」じゃなく、「いま」から始める。

自然と人の想いがギュッと詰まった「めぐるWa!」セット

自然と人の想いがギュッと詰まった「めぐるWa!」セット

01 T-SHIRT

02 WINE

自然と人の想いがギュッと詰まった「めぐるWa!」セット

03 のこり染

DIGITAL PASS

PARTNERS

### 3. 実施内容

#### 【ウール肥料を活用した資源循環モデルの構築】

本事業では、廃棄ウール由来の肥料を那須塩原市内のぶどう畑で活用する資源循環モデルを構築した。具体的には、2025年7月17日に那須塩原市の石井ぶどうにおいて、関係者を集め、ウール肥料の散布を実施した。

これにより、廃棄ウールを農業資源として再活用し、ぶどう栽培からワイン生産へとつながる循環の起点を那須塩原市内に実装した。この取り組みは、資源循環の概念を構想にとどめず、実際の農業現場に接続した点に大きな意義がある。

#### 那須塩原市ワイン産業におけるウールのサーキュラーエコノミーモデル



アパレル廃棄ウール

#### 【アパレル廃棄ウールによるサーキュラーエコノミーモデルの構築】

本事業におけるウールの資源循環は、現行の規制を踏まえ、使用済み衣料ではなく牧場由来の廃棄羊毛を活用して実証を行った。衣料由来資源の肥料化については、染色の土壌影響に関する検証を進めており、2026年中に安全性が整理される見込みである。これにより、将来的な「衣料 → 肥料 → 農業」の資源循環の構築を目指している。

#### 実証実験の概要

本事業では、ウール由来肥料を活用した資源循環モデルの検証を目的として、ぶどう畑で施肥実証を実施した。

実施日 : 2025年7月17日 (木)

実施場所・協力農家: 石井ぶどう

対象品種: マスカット・ベリーA

施肥方法: 肥料を手作業により直接散布

施肥量 : 果樹1本あたり約110g (1回)

使用肥料: ラナリン (蒸製羊毛粉) 320kg  
牛骨粉 120kg (併用)

肥料生産: 岡本製肥所



石井ぶどう/那須塩原市板室地区



「ラナリン」製品情報

原材料 : 羊毛100%

成分・タイプ: 窒素全量10%・緩効性有機肥料

補足事項: 本実証で使用した羊毛は、神戸市・六甲山牧場にて飼育された羊の廃棄羊毛を原料としている。

### 3-1. サーキュラーエコノミーの実装：施肥作業

#### 【本プロジェクトにおけるサーキュラーエコノミーモデルの到達点】

廃棄ウール肥料を散布したぶどう畑では、その後ぶどうの収穫が行われ、ワイン生産へと接続された。このことから、本事業で目指した「廃棄ウール → 肥料 → ぶどう → ワイン」というモデルについて、少なくとも仕組みとしての構築と実装は成功したと評価できる。

※ワインは現在生産中であり、2026年夏に完成予定

肥料散布 2025/7/17



ぶどう収穫 2025/10/11



#### 【製品開発成果】

本事業では、プロジェクトオリジナルのウールTシャツを開発し、廃棄ウール由来の肥料で育てたぶどうから生産したサーキュラーワインとセットにした商品を開発した。単なる物販商品ではなく、循環ストーリーや地域文脈を内包した製品として設計している点が特徴である。



#### 【ウールTシャツ】

資源循環を前提に生産されたウール100%Tシャツ。  
本事業オリジナルのデザインを施したTシャツを  
全4種類生産した。



#### 【那須塩原産ワイン】

那須塩原板室地区の石井ぶどうにて廃棄ウール由来の肥料  
でぶどうを育て、そのぶどうで生産したワインをサーキュ  
ラーワインとして販売。（完成は2026年8月予定）

### 【染色試験の実施】

本事業では、ぶどう搾りかすを染料として活用するため、染色試験を実施した。試験では、染色条件や濃度、素材ごとの差異などを確認し、ぶどう由来の色味がどのように現れるかを検証した。この過程を通じて、天然由来の染色が持つ特性や表現可能性を把握し、製品化に向けた基礎データを蓄積した。

### 染色実証の概要

本事業では、那須塩原市内のワイン生産過程で発生するぶどう残渣を染料として活用し、染物製品の開発に向けた実証実験を実施した。

協力農家：石井ぶどう

使用残渣：ワイン生産時に発生する搾りかす 約20kg

保存方法：冷凍保存

染色加工：株式会社 艶金

染色素材：ウール、コットン、麻

染色試験：堅牢度試験、物性試験

製品開発：サウナハット（ウール）・ミニタオル、トートバッグ（コットン）・ランチョンマット（麻）

納品形式：各製品5点のサンプル製品として納品

### 【実証プロセス】

那須塩原市内のワイン産業で本来は廃棄されているぶどうの搾りかすを活用した染物を下記のプロセスで実証した。

#### ①染色材料の確保

冷凍状態のワイン残渣を艶金（岐阜県大垣市）の染色工場へ運送。

#### ②生地・製品の選定

染色実験及び製品サンプル製作に向け、生地素材、製品を検討。

検討素材：ウール、麻、コットン等の天然繊維

#### ③実証実験

製品サンプル製作に向けて、下記の試験を実施。

- ・ 堅牢度、媒染剤試験
- ・ 素材比較
- ・ 生地染め、製品染め

#### ④結果検証

数回程度の染色検証を経て、採用する製品決定。

完成したサンプルを販促グッズや試験販売として活用

### 【染色工場の視察見学】

染色整理会社である艶金を訪問し、のこり染製品の染色加工および製品化工程を視察した。

#### 工場視察の概要

協力企業：株式会社 艶金（岐阜県大垣市）

視察日：2025年7月14日（月）

参加者：武田様（那須塩原市）、中山様・松永様（艶金）、高田（Spicelink）

視察内容：艶金様との打ち合わせ（生地染め説明）・工場見学（前処理、染色、仕上げ工程）

### 染色工場の視察見学



艶金 Y-TEC事業部 中山様、松永様



「のこり染」説明・事業進捗の共有



サウナハット本製品用のウール生地



乾燥させたぶどうの搾りかす



那須塩原・ぶどう搾りかすで生産した染料



のこり染 染料生産機材

### 染色工場の視察見学



染色設備



染色設備（写真はカカオ染）



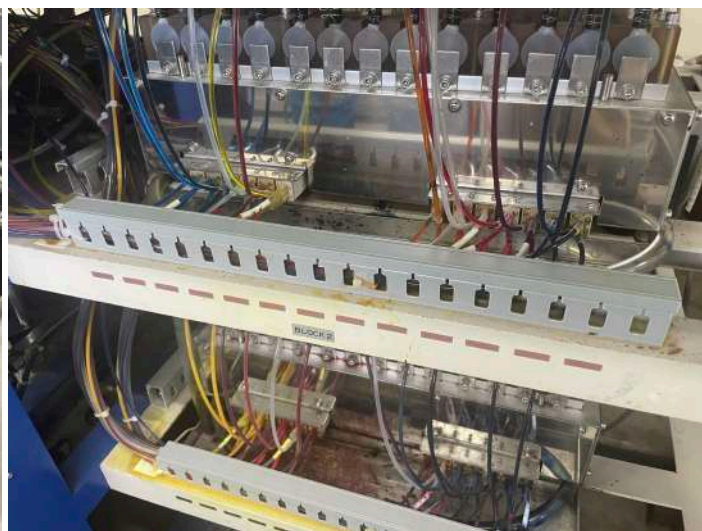
染色工程の説明の様子（ビーカー試験）



染色した生地を乾燥させる設備



ビーカー染色設備と染色の様子



染色設備（色の配合や調整が可能）

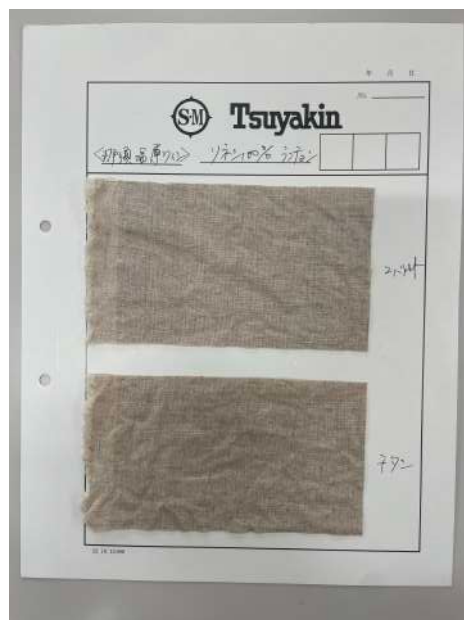
### 【生地染め試験】

本事業では、コバルト媒染・チタン媒染の2種類の方法で生地染色試験を実施した。

#### ビーカー試験サンプル



ウール (メルトン)  
コバルト(上)/チタン(下)



麻  
コバルト(上)/チタン(下)



コットン (帆布)  
コバルト(上)/チタン(下)



コットン (タオル地)  
コバルト(上)/チタン(下)

### 【媒染方法の決定】

素材差はあるものの全体的にチタン媒染は黄色がかった茶色の色味が強く出る結果となった。ぶどう本来の色味により近いコバルト媒染の生地を採用した。

### 【染色堅牢度・物性試験】

本事業では、生地選定、媒染方法の決定後に一般製品の基準を満たしているかを試験した。

#### 試験概要

##### 1. 堅牢度試験

衣料品が日常使用される中で、洗濯・汗・摩擦・日光などの外的要因によって、色がどれだけ変化するか（変退色）・他の衣類へ色が移るか（汚染）を評価する試験

評価：1～5級の5段階評価表（※一般衣料品の目安は「3～4級以上」）

5：ほぼ色変化なし（最良） ～ 3：一般的な衣料品で許容範囲 ～ 1：大きな変化あり

##### 2. 物性試験

洗濯後の縮み、強度、寸法変化など、「素材そのものの物理的性能」を確認する試験  
天然繊維は洗濯時に縮みが出やすい特性があるため、扱い方や素材選定の指標になる

評価：縮みによる変化率（%）

#### 今回の評価の判断方法

今回の試験では、天然染料（ぶどう搾りかす）を使用した製品という前提のもと、下記の2点を判断基準とした。

- ①天然染料は赤系色素が変化しやすい → 化学染料より変退色が出やすい
- ②ウールなどの天然繊維は洗濯で縮みが出る特性がある

### 【ウール製品：サウナハット 試験結果と評価コメント】

#### 【堅牢度試験の結果】

洗濯（変退色）：3.5級程度 → 一般衣料品レベル

汗（酸性／アルカリ性）：3級程度 → どちらも若干基準を下回る（汗で赤みが出る特性）

#### 【物性試験の結果】

C4M吊：約 -6%（縮み） → 柔らかいメルトン生地特性により若干縮みやすい

ピリング：2級程度 → ウール製品はピリング（毛玉）がしやすい

#### 【全体評価】

- ・天然染料＋ウール製品としては許容範囲
- ・ピリング加工、防縮加工の生地を使用することで改善の余地がある

染色堅牢度試験

試験項目	試験方法	色別発注数量		1.0 ナスシオバラウイン 1923470
		JIS規格	色番	
耐光		JISL-0842	変	4
洗濯	A-1法	JISL-0844	変	3-4
	A-1法	JISL-0844	汚	3-4
摩擦 (学振式)		JISL-0849	乾	4-5
		JISL-0849	湿	4-5
汗	酸性	JISL-0848	変	3
		JISL-0848	汚	4-5
	アルカリ性	JISL-0848	変	3
		JISL-0848	汚	4-5

物性試験

試験項目	試験方法	C/# ナスシオバラウイン 1923470		C/#	
		たて	よこ	たて	よこ
洗濯 寸法変化率 (%)	スクリーン法				
	タンブラー法 吊乾燥法				
プレス寸法変化率(%)		0	0		
プレスゆがみ(%)					
ピリングCI法5H	(表)				
	(裏)				
スナッグ	(表)				
	(裏)				
破裂強力(kPa)		380			
C4M吊		-6.0	-6.5	-3.0	-5
ピリングA法5H		2		3	
洗濯ゆがみ		0			



#### 【コットン製品：トートバッグ 試験結果と評価コメント】

##### 【堅牢度試験の結果】

洗濯（変退色）：1級 → 色濃度が上がる（色が濃く見える）

##### 【物性試験の結果】

全て基準値内

##### 【全体評価】

- ・洗濯により色の濃度が濃く見える印象があるため、販売時は「注意書き」による対応が必要と考える
- ・次回生産時にレサイプ調整（化学染料の調整）で改善検討

染色堅牢度試験

試験項目	試験方法	色別発注数量		1.0
		JIS規格	色番	ナスシオハラウイン 1923480
耐光		JISL-0842	変	4
洗濯		JISL-0844	変	1
		JISL-0844	汚	4-5
摩擦 (学振式)		JISL-0849	乾	4-5
		JISL-0849	湿	4-5
汗	酸性	JISL-0848	変	4-5
		JISL-0848	汚	4
	アルカリ性	JISL-0848	変	4-5
		JISL-0848	汚	3

物性試験

試験項目	試験方法	G/# ナスシオハラウイン 1923480	
		たて	よこ
洗濯 寸法変化率 (%)	スクリーン法		
	タンブラー法 吊乾燥法		
プレス寸法変化率(%)		0	0
プレスゆがみ(%)			
ピリングICI法5H	(表)		
	(裏)		
スナッグ	(表)		
	(裏)		
破裂強力(kPa)		800	
C4M吊		-3.0	0
ピリングA法5H		4	
洗濯ゆがみ		2.0	

### 【コットン製品：ミニタオル 試験結果と評価コメント】

#### 【堅牢度試験の結果】

汗（酸性／アルカリ性）：酸性3級、アルカリ性2.5級 → 少し赤みが出る

汗（アルカリ性）汚染：2級 → 若干色移りする可能性がある

#### 【物性試験の結果】

縮み試験の実施なし

#### 【全体評価】

- ・天然染料では一般的な範囲である。タオル用途としては問題なし。

染色堅牢度試験

試験項目	試験方法	色		C/#那須塩原ワイン	C/#
		JIS規格	変		
耐光	4級照射	JISL-0842	変	4以上	
洗濯	A-2法	JISL-0844	変	4	
	A-2法	JISL-0844	汚	4-5	
摩擦 (学振式)		JISL-0849 乾	汚	4-5	
		JISL-0849 湿	汚	4-5	
汗 酸性 アルカリ性		JISL-0848	変	3	4
		JISL-0848	汚	3-4	
		JISL-0848	変	2-3	4
		JISL-0848	汚	2	3

#### 【麻製品：ランチョンマット 試験結果と評価コメント】

##### 【堅牢度試験の結果】

汗（変退色・酸性/アルカリ性） → 基準値をやや下回る。

汗が付く使用環境ではないため実使用上問題なし。

##### 【物性試験の結果】

C4M吊：-3%～ -0.2% → 基準値内で安定

##### 【全体評価】

・安定しており問題なし

染色堅牢度試験

試験項目	試験方法	色別発注数量		1.0
		JIS規格	色番	ナスシオハラワイン 1923490
耐光		JISL-0842	変	3-4
洗濯	A-1法	JISL-0844	変	4
	A-1法	JISL-0844	汚	4-5
摩擦 (学振式)		JISL-0849	乾	4-5
		JISL-0849	湿	4
汗	酸性	JISL-0848	変	3-4
		JISL-0848	汚	4
	アルカリ性	JISL-0848	変	3-4
		JISL-0848	汚	3-4

物性試験

試験項目	試験方法	C/# ナスシオハラワイン 1923490	
		たて	よこ
洗濯 寸法変化率 (%)	スクリーン法		
	タンブラー法		
	吊乾燥法		
プレス寸法変化率(%)		0	0
プレスゆがみ(%)			
ピリングICI法5H	(表)		
	(裏)		
スナッグ	(表)		
	(裏)		
破裂強力(kPa)		800	
C4M吊		-3.0	-0.2
ピリングA法5H		3-4	
洗濯ゆがみ		0	

### 【染色堅牢度・物性試験の評価まとめ】

#### ◆全体評価

- ・天然染料の特性として許容範囲に収まる結果  
赤系天然染料は変化しやすいが、使用想定内の変動である。
- ・汗による赤みの変化は共通して発生  
汗環境では色素が反応しやすいが、生活使用で問題となるケースは少ない。
- ・トートバッグの洗濯1級は改善余地あり  
洗濯をすると濃く見える変化が出る可能性があるため、注意書きにより許容可能。
- ・ウール製品（サウナハット）は縮みが課題  
素材本来の特性のため許容範囲であるが、縮みや毛玉防止加工の素材の検討余地あり。

### 【染物実証から得られた知見と製品化方針】

本実証を通じて、天然素材を用いた染色は工業製品のような均一性ではなく、素材や環境によって生まれる個体差そのものに価値があることが明らかになった。また、製品化にあたっては環境価値との整合性を重視し、あえて化学染料による調整を行わない判断を行った。

### ◆染物実証から得た示唆

- ・天然染色は「再現性」ではなく「個体差」に価値がある
- ・色味のばらつきは品質課題ではなく、ストーリー性として訴求可能
- ・環境価値を優先することで、商品コンセプトの一貫性が担保される
- ・均一性ではなく“自然由来の個性”を活かした商品設計が有効
- ・結果として、独自性の高い付加価値を持つ製品開発が可能となる

### 【製品サンプルの開発】

本事業では、染物実証の成果として「のこり染製品」を開発した。ぶどう搾りかすで染めたやわらかい色味と日常で使いやすい製品は、手に取った消費者が循環の価値を日々の暮らしの中で感じられるように設計した。



サウナハット/ウール



トートバッグ/コットン帆布



ミニタオル/コットン



ランチオンマット/麻

#### 【販売モデルの検討】

本事業では、資源循環によって生まれた製品をどのように販売するかについても検討を行った。なお、実際の販売行為自体は本業務の範囲外であり、PIZZA DAYが自主的に実施したものであるが、その販売実績はビジネスモデルの成立可能性を補足的に示す参考データとして有効である。

#### 販売モデル



プロジェクトwebサイト



PIZZA DAY ECストア



#### 購入者特典・メリット



リアルイベント招待



周遊クーポン提供

#### ◆販売スケジュール

2025年8月5日：プロジェクトwebサイト・ECストア公開

めぐりのWA!セット 販売開始（特典有効期間：2025/8/5~12/31）

2025年12月5日：のこり染製品 販売開始

### 3-3. 製品の販売検証：販売製品一覧



本事業で開発した6点の製品を生産し、販売検証した。



#### 【めぐりのWA!セット】

本商品は、ウールTシャツ1枚と那須塩原ワイン1本（赤・ロゼから選択）をセットにした。Tシャツは本事業のためにオリジナルで生産したもので、上質なメリノウール使用しながらシンプルな設計とし、消費者が手に取りやすい価格帯として設計した。

商品名：めぐりのWA!セット THE EASY WT&ワイン  
販売価格：15,800円（税込）



#### 【めぐりのWA!セット】

本商品は、ウールTシャツ1枚と那須塩原ワイン1本（赤・ロゼから選択）をセットにした。Tシャツは最高クラスの品質の生地に襟の編み加工を施したもので、高い機能性と着心地を兼ね備えている。より本物志向の強い消費者向けとして設計した。

商品名：めぐりのWA!セット THE ORIGINAL WT&ワイン  
販売価格：19,000円（税込）



#### 【のこり染 サウナハット】

販売価格：4,290円（税込）



#### 【のこり染 トートバッグ】

販売価格：4,840円（税込）



#### 【のこり染 ミニタオル】

販売価格：1,100円（税込）



#### 【のこり染 ランチョンマット】

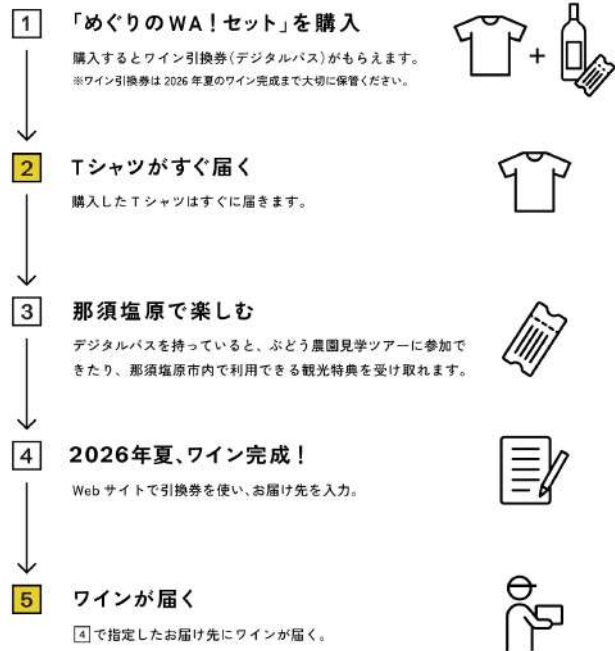
販売価格：1,650円（税込）

#### 【引換券によるワイン販売スキーム】

「めぐりのWA!セット」では、ワイン完成前に販売を行う「引換券方式」を採用し、Tシャツは先に届け、ワインは完成後に発送する時間差型の販売スキームを構築した。購入者は、自身が購入したワインに使用されるぶどうの収穫や農園見学といったイベントに参加でき、ストーリーを含めた価値設計として成立したと評価できる。

#### 購入フロー

##### 【購入フロー】



##### 【ワイン引換券 (デジタルパス)】



「めぐりのWA!セット (Tシャツとワインのセット)」購入者に提供したデジタル引換券は、リアルイベントへの参加権利や那須塩原市内の観光施設で利用可能なクーポン特典を付与した。

ワイン引換券の仕様：ERC721 NFT型デジタルパス

#### 【ワイン引換券発行の仕組み】

「めぐりのWA！セット」購入者が、購入完了メールからデジタル上のワイン引換券を受け取れる仕組みを構築した。メールアドレスとスマートフォンがあれば容易に受け取ることができ、利用ハードルの低い設計とした。また、本引換券にはNFT技術を活用しており、不正利用を防ぎながら、シンプルな管理・運用を実現している。

#### ワイン引換券の発行フロー



【Step1】  
購入完了メールから  
引換券発行ボタンをタップ



【Step2】  
ウォレットを接続する  
をタップ



【Step3】  
メールアドレスを  
入力



【Step4】  
パスコードを入力  
認証を行う



【Step5】  
ワイン引換券を  
受け取る

#### 【販売スキームの検証結果】

本事業で採用した引換券方式は、通常のEC販売とは異なるモデルであったが、購入者からのクレームやトラブルは発生しなかった。また、引換券をデジタル化したことで、メールアドレスがあれば受け取り・管理が可能となり、紛失などのトラブル防止にも寄与した。

#### ◆評価

- ・循環ストーリーを価値として伝える設計が機能し、問題なく運用ができた
- ・クレームや大きなトラブルは発生せず、スキームとして安定的に運用できた

#### ◆改善点

- ・スマートフォンやデジタルに不慣れな層に向けたサポート体制の強化に検討余地がある

### 3-3. 製品の販売検証：販売実績



#### 【商品別 販売実績】

本事業に関連して開発した商品の販売実績は以下の通りである。

なお、販売は業務外ではあるが、ビジネスモデル検証の参考データとして整理する。

販売データ取得期間：2025年8月8日～2026年3月19日

商品名	生産数量	販売数量	売上金額	売上シェア
THE EASY WT (1枚) & ワイン (1本) めぐりのWA! セット	60	24	¥347,600	73.2%
THE EASY WT NASU edition	60	2	¥23,760	5.0%
THE ORIGINAL WT (1枚) & ワイン (1本) めぐりのWA! セット	20	1	¥19,000	4.0%
THE ORIGINAL WT NASU edition	20	1	¥15,840	3.3%
のこり染 トートバッグ	10	3	¥13,552	2.9%
のこり染 サウナハット	45	5	¥20,592	4.3%
のこり染 ランチョンマット	73	12	¥19,800	4.2%
のこり染 ミニタオル	155	14	¥14,960	3.1%
		合計売上	¥475,104	100%

※のこり染製品の生産数量は、サンプル納品分・プロモーション用(各5部)を除く数量です。

### 3-3. 製品の販売検証：販売実績

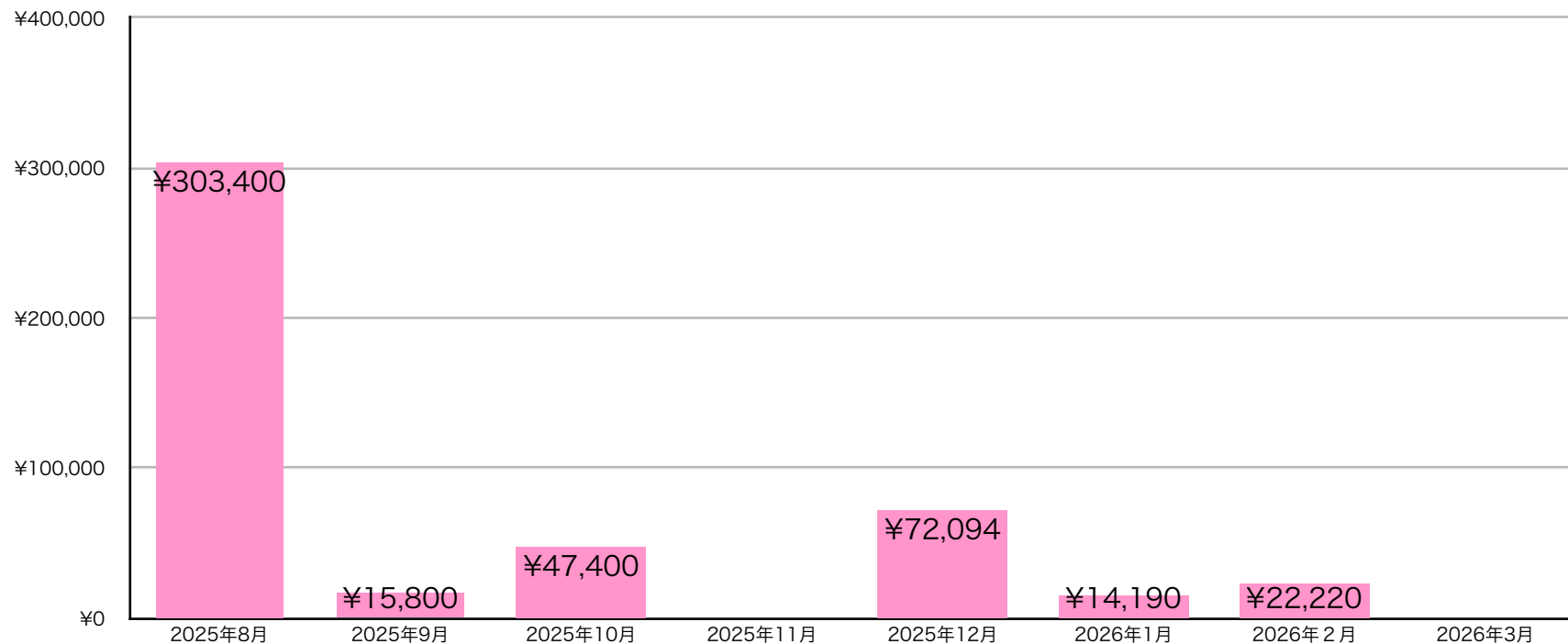


#### 【月別売上推移】

2025年8月の販売開始時に売上が集中し、その後も断続的に販売が継続している。  
2025年12月にセールを実施したタイミングで再度販売が伸長している。

販売データ取得期間：2025年8月8日～2026年3月19日

※Green Fridayセール実施期間：2025年12月12日～18日



#### 【購入者データ】

購入者数は30人、平均購入点数は2.1点、平均購入金額は15,837円であった。

この結果から、単品購入にとどまらず、複数商品を組み合わせて購入する傾向が確認され、一定の購買意欲および商品への関心の高さがうかがえる。また、平均購入金額が比較的高い水準であることから、本事業において設計したストーリー性や体験価値が、価格受容性の向上に寄与したものと考えられる。

販売データ取得期間：2025年8月8日～2026年3月19日

購入者数	30人
平均購入点数（一人当たり）	2.1点
平均購入金額（一人当たり）	15,837円

#### 【参考情報：プロジェクト関係者による購入】

購入者：3人 購入金額合計：76,300円

#### ◆全体サマリ

「商品そのもの」ではなく「ストーリーと体験」が購買を生み、特にセット商品でその効果が最大化された。

#### ◆販売分析

- ・ 売上の大半はセット商品（全体シェア：73%）
- ・ アパレル単体は既存認知層が中心
- ・ のこり染製品は低価格帯のサブ商品として機能

#### ◆示唆

- ・ スペックではなく「背景・循環ストーリー」が購買を生む
- ・ セット化により価値伝達が強化され、価格受容性が向上
- ・ 高単価でも文脈設計次第で購入は成立
- ・ 初動依存モデル → 継続接点・再購入設計を検討

#### 【プライシング方針と検証の前提】

本事業におけるのこり染製品のプライシングは、販売が実証範囲に含まれていない前提のもと整理を行った。

- ・ 本事業で定められたサンプル納品（各種5点）を目的に最小ロットで生産
- ・ 染色試験・試作等のイニシャルコストが原価に大きく反映
- ・ 納品数を上回る余剰分を活用し、販売検証を実施

これにより、単純な原価ベースでは適切な価格設定が困難な状況を踏まえ、一般市場の価格帯を基準とした「適正価格」での検証を行った。

#### 【プライシングの考え方】

- ・ 市場価格を基準とした価格設定
- ・ 素材特性（ウール・コットン・麻）および製造背景を考慮
- ・ 消費者視点を重視し、継続可能性を優先

#### ◆1商品あたりの製造コスト

商品名	サウナハット	トートバッグ	ハンドタオル	ランチョンマット
制作原価	¥3,410	¥6,333	¥488	¥8,500

#### ◆販売シミュレーション

商品名	サウナハット	トートバッグ	ハンドタオル	ランチョンマット
想定原価	¥2,990	¥2,000	¥550	¥650
販売価格	¥3,900	¥4,400	¥1,000	¥1,500
利益率	23.3%	54.5%	45.0%	56.7%

#### 【来年度に向けた活用】

市場価格を参考にプライシングを行い実際に販売した結果、一定の販売実績が得られたことは、価格設定の妥当性を裏付けるデータとして有効である。これらをもとに、価格設計や生産数量の考え方を整理し、市場ニーズに即した製品開発へとつなげていく。

### 【体験イベントの位置づけ】

本事業における体験イベントは、単なる集客施策ではなく、資源循環の価値を参加者が体験を通じて理解し、自分ごと化するための重要な施策として位置づけている。

### 「めぐるWA！体験プログラム」概要

本イベントは「めぐりのWA！セット」購入者を対象に実施した参加型プログラムである。ファッション環境問題を学ぶワークショップ、ぶどう栽培からワインへとつながるサーキュラーエコノミープロセスを現地で体験できる機会を提供した。

#### イベントの目的

商品購入を起点に体験へと接続し、資源循環の理解促進と行動変容のきっかけ創出を図った。

#### プログラム内容

- ・ウールの機能性や環境課題を学ぶワークショップ（ウールラボ） @みるる
- ・ぶどう収穫体験、ワイン試飲 @石井ぶどう農園
- ・交流タイム @ゲストハウスLeu.（雨天により別会場で実施）

開催日時：2025年10月11日（土）10:00~16:00

実施会場：那須塩原市図書館「みるる」内イベント会場・石井ぶどう農園

参加対象：めぐりのWA！セット購入者 限定（無料）

特設webサイト：<https://pizzaday-nasushiobara.notion.site/WA-23980490ed8f80838077f468bbca5814>

イベント申込サイト：<https://luma.com/qgdg9l9s>

# 3-4. 体験イベント：「めぐるWA！体験プログラム」実施概要



## タイムスケジュール

時間	イベント内容
10:00	JR那須塩原駅前 西口ロータリー集合
10:30	ウールラボ・スタート
11:30	ウールラボ・終了
11:45	ランチタイム・自由行動 @道の駅 明治の森・黒磯
13:15	ぶどう農園へ移動
13:30	石井ぶどう農園 到着 ~ 体験イベント
15:15	体験イベント 終了 ~ バス移動
15:45	解散・JR黒磯駅
16:00	解散・JR那須塩原駅

【イベントwebサイト】

<https://pizzaday-nasushiobara.notion.site/WA-23980490ed8f80838077f468bbca5814>

【申込サイト】

<https://luma.com/qgdg9l9s>

## イベントwebサイト



## 申込サイト



### 【ウールラボ】

ウール素材の機能性やアパレル環境問題の啓発を目的とした参加型実験コンテンツ。

講師：NIKKE（日本毛織株式会社）衣料繊維事業本部 マーケティング部 坂本様・田先様

### 【ぶどう農園見学・収穫体験】

石井ぶどう農園の農園見学およびワインづくりの説明を受けた後、廃棄ウール由来の肥料で育てたぶどうの収穫体験を実施した。

アテンド：農園オーナー 石井様

### 【交流タイム】

ワイン試飲、ぶどう試食をしながら参加者と運営チームを交えた交流会を実施した。  
石井ぶどう農園で実施予定だったが、雨天により別会場で実施した。

会場：ゲストハウスLeu.

### 3-4. 体験イベント：「めぐるWA！体験プログラム」レポート写真

#### ウールラボ @みるる



防シワ性実験



ファッション環境問題の説明



羊毛を撚り糸をつくる実験



繊維生分解性の説明



繊維の消臭性実験



生地当て

### 3-4. 体験イベント：「めぐるWA！体験プログラム」レポート写真

#### 収穫体験・農園見学 @石井ぶどう



農園見学ツアー



農園見学ツアー



収穫方法のレクチャー



収穫体験



収穫体験



収穫したぶどう

### 3-4. 体験イベント：「めぐるWA！体験プログラム」レポート写真

#### 交流タイム @ゲストハウスLeu.



ワイン・ぶどう試食



ご挨拶 (CE課 小野課長)



乾杯



歓談タイム



歓談タイム



お土産

#### 【体験イベントの成果と課題】

体験イベントは、参加者満足度や理解促進という観点では高い成果を示した一方で、参加人数は当初想定よりも少なく、集客面では課題が残った。

特に、現地へ足を運ぶことに対する心理的・金銭的ハードルが存在し、地域外からの参加には一定の障壁があることが示唆された。一方で、参加者アンケートからは、体験を通じた理解促進や那須塩原市への関心向上といったポジティブな反応が多く得られており、プログラムそのものの質や価値には十分な手応えがあったといえる。

### 3-4. 体験イベント：「めぐるWA！体験プログラム」参加者データ

#### イベント参加人数

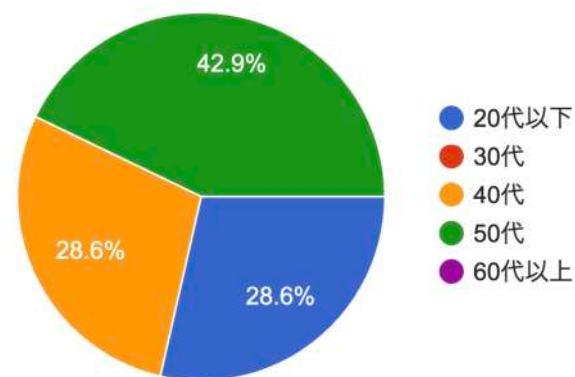
事前登録人数	9人
当日欠席	2人
当日参加人数	7人

#### 居住エリア

エリア	人数
東京都	5人
神奈川県	1人
静岡県	1人

#### 参加者プロフィール（回答数：7人）

年代別 参加者	年代
20代以下	2人
30代	0人
40代	2人
50代	3人



### 【アンケート調査概要】

体験イベント終了後に参加者へアンケート調査を実施。本アンケートは、参加者の満足度、学び・意識変化、今後の改善点を把握することを目的に実施した。

### <めぐるWA！体験プログラム 実施概要>

実施内容：ウールラボ、石井ぶどう農園見学・収穫体験、懇親会

実施日時：2025年10月11日（土）10時~16時

実施会場：那須塩原市図書館「みるる」、道の駅 明治の森・黒磯、石井ぶどう農園

参加者数：7名

### <回答概要>

回答者数：7名

実施方法：インターネットによるアンケート調査

#### 【結果サマリー】

##### ◆満足度・全体評価

- ・全体満足度は平均5.0/5と非常に高く、「ウールラボ」「ぶどう収穫体験」が特に好評。
- ・地域特性を活かしたサーキュラーエコノミーへの取り組みに対する関心の声が多く寄せられた。

##### ◆学び・意識変化

- ・7割が「サステナブルや資源循環への関心が強くなった」と回答。
- ・学び、楽しさ、両面で「良い経験になった」とのコメントが多く、体験を通じた理解促進や自分ごとの効果が確認された。

##### ◆那須塩原市への関心

- ・参加者全員が那須塩原市への関心が「より強くなった・より身近に感じた」と回答。
- ・「観光を楽しみながら体験したい」「シリーズ化で四季を感じたい」といった声が寄せられ、観光誘致や地域ファンづくりの効果が見られた。

##### ◆関心の高かった要素

- ・「ウールラボ」「ぶどう収穫体験」「スタッフや参加者との交流」が上位を占めた。
- ・「時間が足りなかった。石井さん、NIKKEさんの話をより聞きたい」などの声が寄せられた。

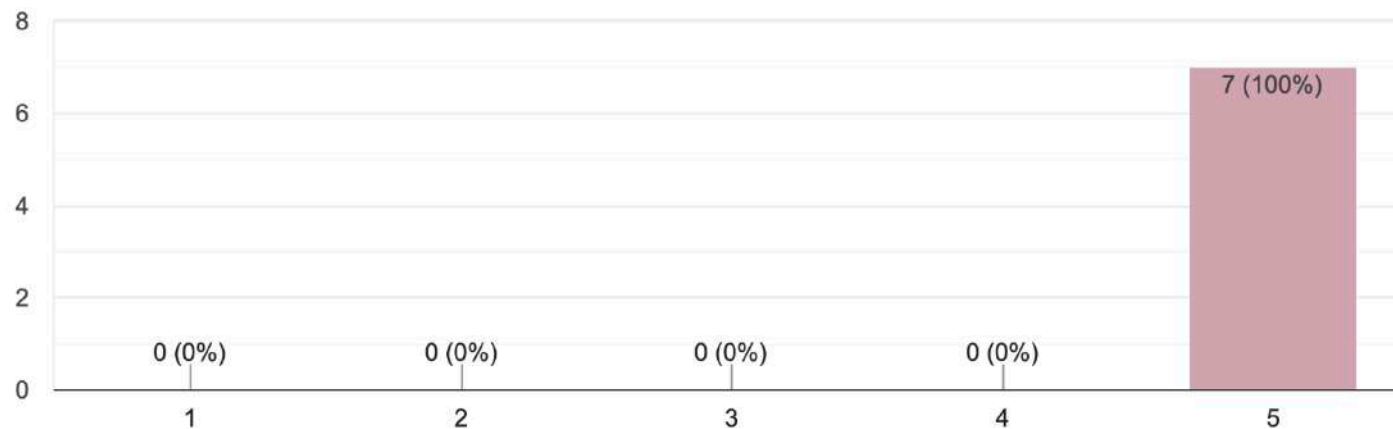
##### ◆改善要望

- ・特に改善が必要なコメントはなし。
- ・「草木染めブランドとのコラボ」「もう少し堪能したかった」などの意見が集まった。

### 3-4. 体験イベント：「めぐるWA！体験プログラム」アンケート結果

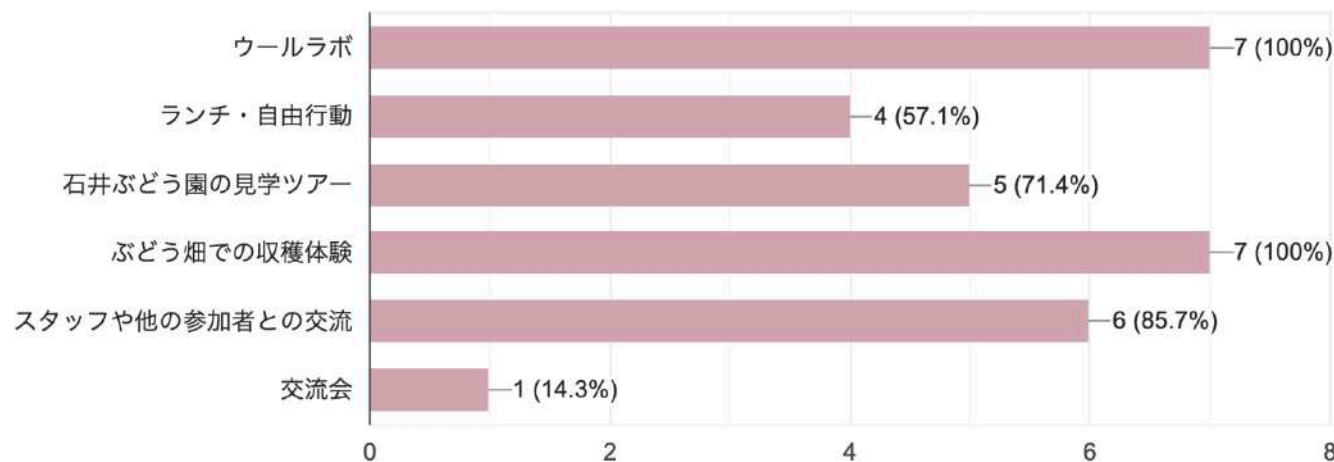
今回のイベントの満足度を教えてください。(1=不満、5=とても満足)

7件の回答



特に印象に残ったコンテンツを教えてください。(複数選択可)

7件の回答



### 3-4. 体験イベント：「めぐるWA！体験プログラム」アンケート結果

改善してほしい点があれば教えてください。

5 件の回答

あっという間で時間がもっとあってもいいと思いました

もう少し那須塩原を堪能したかったなあ～

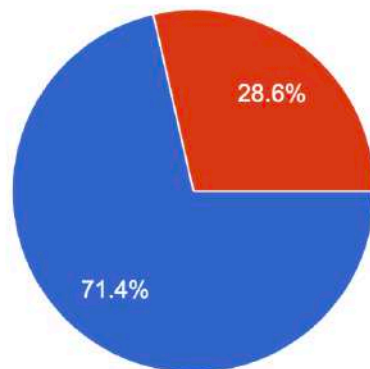
あまりにもいい経験だったので、NIKKE様、石井様の話をもっと聞きたいと思いました。

今の所思いつきません。

特段改善課題は少なく、お天気だともっともっと良かったということがわかりました。アットホームな感じが良かったです。

今回の体験を通して、「サステナブル」や「資源循環」への関心は変わりましたか？

7 件の回答

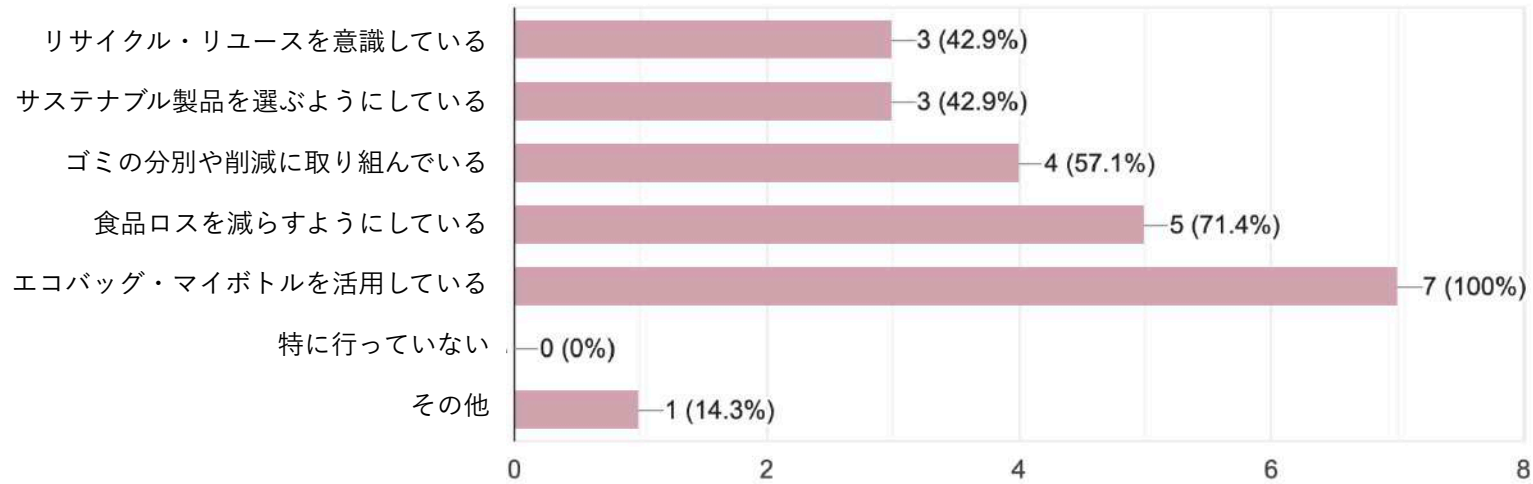


- 以前より関心が強くなった
- もともと関心があったが、より身近に感じた
- あまり変わらない
- よく分からなかった

### 3-4. 体験イベント：「めぐるWA！体験プログラム」アンケート結果



普段の生活の中で、サステナブルな取り組みを行っていますか？（複数選択可）

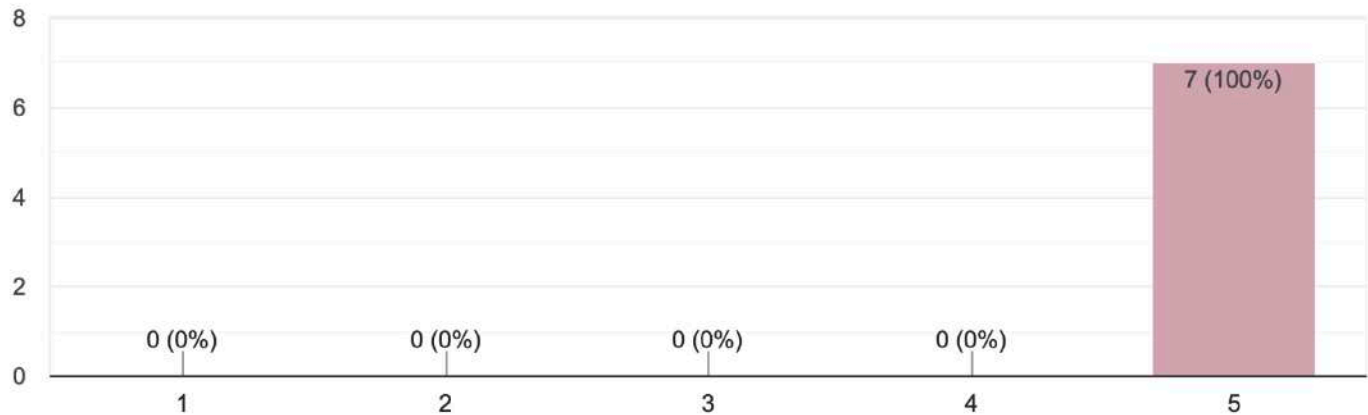


**その他（自由記入）の回答**  
水も資源なので洗剤、油汚れの鍋こべりつきは拭って捨てています。水は体にとっても大事な資源です。

今回の体験を通して、「ウール」という素材についての理解は深まりましたか？

7件の回答

(1=まったく理解できなかった、5=とても深まった)



### 3-4. 体験イベント：「めぐるWA！体験プログラム」アンケート結果



今回の体験を通して、那須塩原市への関心は変わりましたか？

7件の回答



那須塩原市の魅力を生かしたサーキュラーエコノミーの取組について、アイデアがあれば教えてください。(今後の参考にさせていただきます)

4件の回答

酪農、畑、温泉の地熱など、観光を楽しみながら循環の仕組みを体験できるものがあるといい

具体的なアイデアはありませんが、今回の体験でサーキュラーエコノミーを他人事ではなくより身近に感じることができました。主催者だけでなく共感した参加者も自発的に（やらされ感ではなく）広めていけるような空気感が伝わっていけばいいと感じました。私は非力ながらこのような活動は喜んで宣伝していきます。

道の駅で色々見させていただいて、既に沢山の取り組みをされていたので、私の浅知恵では思いつかないです。すみません。

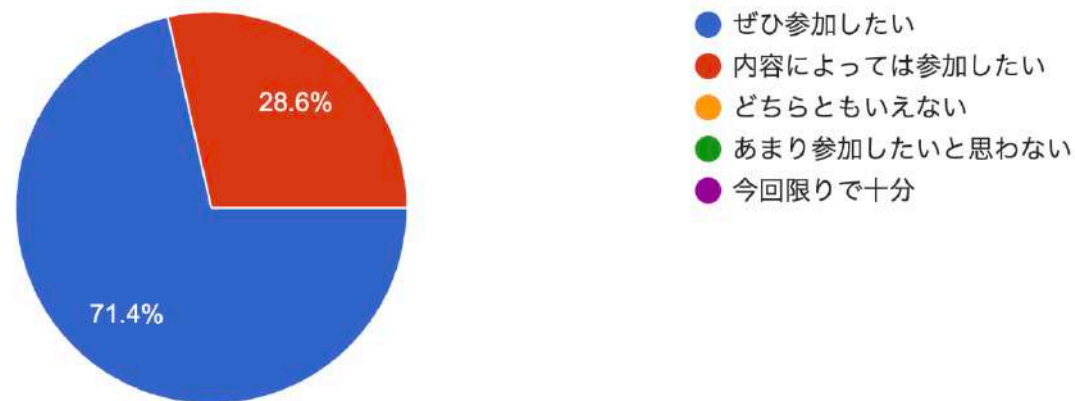
草木染め関連のブランドとのコラボにおけるスケール

### 3-4. 体験イベント：「めぐるWA！体験プログラム」アンケート結果

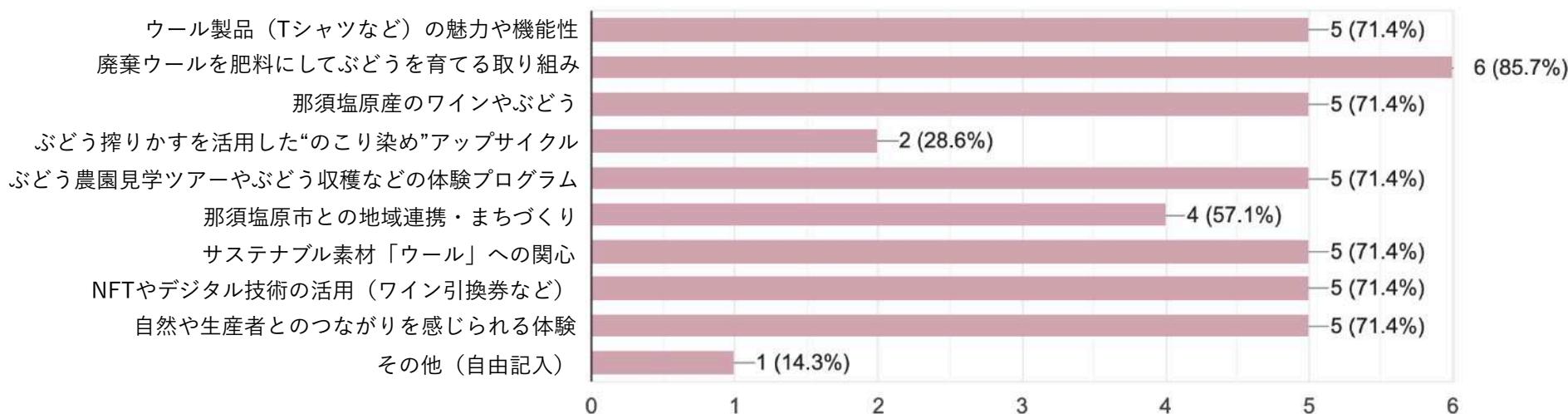


今後も「めぐるWA！」プロジェクトのイベントや取り組みに参加したいですか？

7件の回答



「ウールとワインと那須塩原のWA！」プロジェクト全体で、特に興味を持ったポイントを教えてください。（複数選択可）



**その他（自由記入）の回答**

全ては繋がっています。シリーズ化して四季も感じながら展開、拡大、巻き込みをお願いしたいです。有意義な時間を共有できました。企画、準備、お片付け、皆さんの思いをありがとうございます。

### 3-4. 体験イベント：「めぐるWA！体験プログラム」アンケート結果

イベントの感想や、PIZZA DAY・那須塩原市へのメッセージをお願いします。

7件の回答

学びからワインまで短時間に体験が詰め込まれていて良かった

今回の参加を通して、本当に貴重な体験をさせていただきました。那須塩原を訪れるのは初めてでしたが、ぶどうの収穫やサーキュラーエコノミーの取り組みに参加でき、とても良い経験になりました。さらに、美味しいワインやぶどうを試食させていただき、心より感謝しています。ありがとうございました。

那須塩原市の地域特性を活かしたサーキュラーエコノミーへの取り組みに大変感銘を受けました。今回は1人で参加しましたが家族や身近な人にこのような活動とサステナブルな取り組みについては、もはや企業や先進国だけの課題ではなく、自分ごとであることを伝えていきたいと思います。また個人的に今回初めて訪れた那須塩原市が大好きになりましたので、家族を連れて必ず観光に来ようと思っています。

ウールについてのワークショップ、道の駅、ブドウ園など興味深いコンテンツが多く、あっという間に時間が経っていました。とても楽しい企画の運営をありがとうございました！

ウールへの理解が深まりました。PIZZA DAYの目指してる事が少し理解出来たと思っています。これがもっと社会に広がる様に微力ながら協力したいと思いました。若い頃は、よく那須高原や那須塩原に来てましたが更に魅力的になっていて驚きました。今度は家族で伺いたいです。

率直に楽しかったです。普段できない体験をさせていただけて感謝です。来週がさらに楽しみになりました。

全ては繋がっています。シリーズ化して四季も感じながら展開、拡大、巻き込みをお願いしたいです。有意義な時間を共有できました。企画、準備、お片付け、皆さんの思いをありがとうございます。

### 【周遊クーポン・特典の概要】

本事業では、ワインの引換券を単なる後日配送の権利としてではなく、周遊クーポンや特典として活用する仕組みを構築した。このデジタルパスは、那須塩原市へ観光などで来訪した際に、特典やクーポン、体験プログラムへの参加権としても機能するように設計した。これにより、商品購入を起点に、地域来訪、観光、体験消費へと接続する導線を構築した点が大きな特徴である。

### 協力施設・団体



もみじ谷大吊橋

#### 【もみじ谷大吊橋】

提供メリット：渡橋料無料



那須塩原湯っ歩の里

#### 【湯っ歩の里】

提供メリット：入館料無料



那須千本松牧場

#### 【那須千本松牧場】

提供メリット：アクティビティ  
割引・ショップでの買い物  
5%OFF



那須塩原市  
観光局

#### 【那須塩原市観光局】

提供メリット：ノベルティセッ  
トプレゼント

## 3-5. 周遊クーポン・特典：結果検証

### 【周遊クーポン・特典の結果検証】

本事業において実装した周遊クーポン・特典（デジタルパス）については、期間中の利用実績は確認されなかった。一方で本施策は、商品購入を起点に地域来訪や体験へとつなげる導線を構築する取り組みとして位置づけている。初期段階においては、利用数そのものではなく、受け皿となる仕組みを整備し、その有効性を検証することが重要である。本ページでは、こうした前提のもと、施策の評価・示唆・改善点を整理する。

#### ◆全体コメント

- ・商品購入に「地域来訪」という次の行動を設計できている点は、本事業の拡張性として評価できる。
- ・利用実績はなかったが、あらかじめ整備しておくことで、将来的な活用余地を確保できている。
- ・参加施設側にデメリットがなく、継続・拡張しやすい設計となっている。

#### ◆示唆

- ・周遊クーポンは集客装置ではなく、認知・関心の醸成と組み合わせる機能する施策である。
- ・プロジェクトの関係人口やファンが蓄積されることで、将来的に利用が発生する構造と考えられる

#### ◆改善点

- ・連携先を拡充し、デジタルパス自体の魅力度を高める必要がある。
- ・来訪の「目的」になる体験コンテンツとの接続を強化し、クーポンが“おまけ”ではなく“理由”になる設計への進化を目指す。

## 4. 成果と評価

本事業では、サーキュラーエコノミー、染物実証・製品開発、販売スキーム、体験イベントという4つの領域を統合的に実施したことで、資源循環による環境負荷軽減と、ビジネスとしての成立可能性の双方について具体的な成果を得ることができた。

特に大きな成果は、廃棄ウールおよびぶどう搾りかすを活用した2つの資源循環モデルを、実際の地域資源と現場の中で構築・実装できた点にある。

また、その循環価値を製品として可視化し、さらに販売と体験へ接続するところまでモデルとして提示できたことは、本事業の到達点として重要である。

### ◆資源循環モデルの評価

資源循環モデルについては、実際にウール肥料をぶどう畑へ散布し、その後の収穫とワイン生産へ接続できたことから、モデル構築としては成功したと評価できる。

本事業において重要なのは、厳密な農学的効果の定量検証というよりも、環境問題を生活者が理解できる形へ変換し、自分ごと化を促進する仕組みを実装した点にある。つまり、本モデルの意義は、資源循環を単なる技術的処理ではなく、体験や物語を伴う価値として社会へ提示したことにある。

### ◆染物実証の評価

染物実証については、ぶどう搾りかすを活用した染色試験と製品化に成功したことから、製品開発としては十分な成果が得られた。成功要因としては、艶金が有するのこり染の実績と知見、そして天然由来の色味を価値として捉える意思決定が挙げられる。

一方で、当初想定していた色味との差異が生じた点は事実であるが、本事業では化学染料による調整を行わず、環境価値を優先した。その結果、商品性と環境価値の間に緊張関係が生じることも見えたが、同時に天然素材ならではの魅力的な色味も実現できた。この点は、本事業における重要な論点であり、今後の商品開発においても継続的に検討すべきテーマである。

### ◆製品開発・販売スキームの評価

製品開発と販売スキームについては、商品としての魅力と、循環ストーリーの訴求を両立できた点が成果である。特に、ワイン完成前に引換券方式で販売するスキームは、通常のEC販売とは異なる挑戦的なモデルであったが、大きな混乱なく受容された。

このことから、購入者は単なる完成品だけでなく、その背景にある循環のプロセスや地域文脈に価値を見出していたと考えられる。すなわち、本事業では「環境価値を製品へ転換し、それを生活者に受け入れてもらう」という初期検証に成功したと評価できる。

### ◆体験イベントの評価

体験イベントは、参加人数という点では当初想定を下回ったものの、参加者満足度や理解促進の観点では高い成果を示した。参加者が実際の現場で資源循環に触れ、理解を深めることができた点は、本事業の意図に合致している。

また、デジタルパスや観光特典との接続により、イベントが単発の体験で終わるのではなく、地域来訪や回遊へと広がる可能性を持つことも確認できた。この点で、体験イベントは理解促進施策であると同時に、地域との関係人口を生み出す導線としても有効である。

本事業の最大の成果は、資源循環を「理解できる仕組み」として実装した点にある。単に環境負荷を減らすだけではなく、資源循環の背景を製品、体験、観光、ストーリーへと翻訳し、生活者が触れられる形で提示したことに本質的な価値がある。

この意味で、本事業は、環境問題を“遠い社会課題”ではなく、“自分ごととして感じられる価値”へと変換するモデルの提示であったといえる。



**【プレスリリース概要】**  
**PIZZA DAY、那須塩原市と連携し「ウール×ワイン」の資源循環プロジェクトを始動**

配信日時：2025年6月3日  
 ページビュー数：2,090  
 転載サイト数：24  
 記事URL：<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000005.000121879.html>



**【プレスリリース概要】**  
**PIZZA DAY、「ウールとワインと那須塩原のWA！」特設サイトを公開**

配信日時：2025年8月8日  
 ページビュー数：723  
 転載サイト数：44  
 記事URL：<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000007.000121879.html>

## 4-4. メディア 掲載クリップ



### 【取材記事】

ウールがワインに生まれ変わる。那須塩原のぶどう畑でファッションの循環を体験してみた

掲載メディア：Shift C

配信日時：2025年10月27日

記事URL： <https://shiftc.jp/2025/10/27/pizzaday-nasushiobara/>



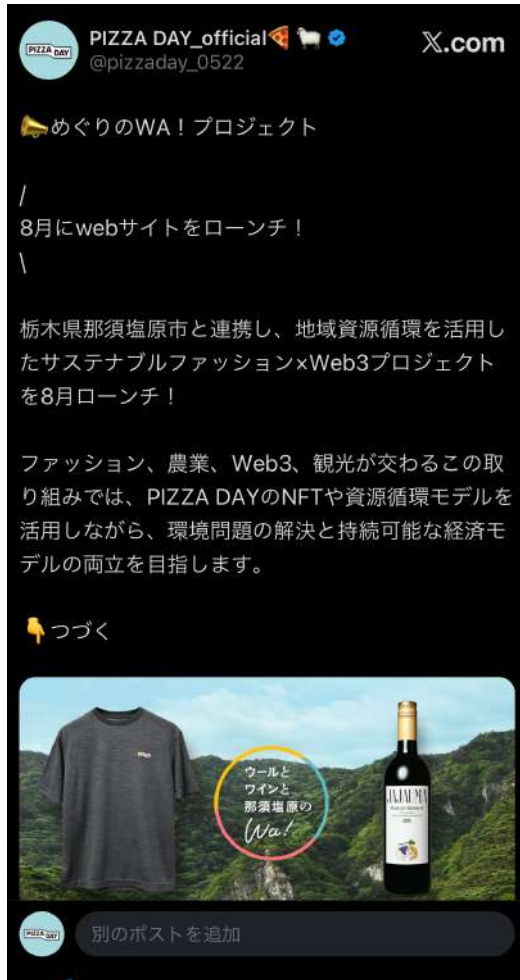
### 【インタビュー記事】

掲載メディア：web3地方創生ねっと

配信日時：2025年8月28日

記事URL： <https://www.web3-chihou-sousei.net/interview/pizza-day-nasushiobara/>

## 4-4. メディア 掲載クリップ



メディア：X  
投稿日時：2025年7月30日  
インプレッション：1.5万回  
いいね：37 / リツイート：27  
URL：  
[https://x.com/pizzaday\\_0522/status/1950525629654511854?s=46&t=w5xkQJoMq13crAw0lvirjw](https://x.com/pizzaday_0522/status/1950525629654511854?s=46&t=w5xkQJoMq13crAw0lvirjw)



メディア：Instagram  
投稿日時：2025年9月8日  
インプレッション：7,124回  
いいね：87 / リツイート：5  
URL：  
<https://www.instagram.com/p/DOVs4gGEgT9/?igsh=MXhwanNzbTgwMXFq>



メディア：Instagram  
投稿日時：2025年9月9日  
インプレッション：7,018回  
いいね：93 / リツイート：2  
URL：  
<https://www.instagram.com/p/DOYGdx9EpOI/?igsh=YnptMDQyZ2pleXQx>



### 【ブログ記事】

自治体とアパレルが取り組む「美味しいサーキュラーエコノミー」とは？

掲載メディア：PIZZA DAY公式ブログ

配信日時：2025年11月22日

記事URL：<https://note.com/pizzaday/n/n6a18ba5ae70e>



### 【ブログ記事】

めぐるWA! 体験プログラム：参加者インタビュー

掲載メディア：PIZZA DAY公式ブログ

配信日時：2025年12月2日

記事URL：<https://note.com/pizzaday/n/n88f85067658d>

## 5. まとめ

### ◆総括

本事業では、廃棄ウールおよびぶどう搾りかすを活用した2つの資源循環モデルを構築・実装し、それを製品化、販売スキーム、体験イベントへと接続することで、ビジネスモデルとしての成立可能性を検証した。

その結果、環境価値を製品価値、体験価値、地域価値へと変換する仕組みについて、初期的ながら有効なモデルを提示することができた。

### ◆本事業の到達点

本事業により、以下の3点を達成した。

- 1：那須塩原市の地域資源を活用した資源循環モデルを構築し、実際の現場に実装したこと。
- 2：循環価値を製品として可視化し、生活者に届く形で開発・販売できたこと。
- 3：体験や観光との接続を通じて、地域回遊や地域内消費へ広がる可能性を示したこと。

今後は、本モデルの継続と拡張を通じて、那須塩原市に根ざしたサーキュラーエコノミーの実装がさらに進展することが期待される。

### ◆今後の展開に向けた拡張案

本事業の検証結果を踏まえ、次年度以降に向けた展開として、以下の観点からの拡張が有効であると考えられる。

#### 拡張案

##### 1. 地域性の強化

本事業における地域要素は、一部の生産工程（例：石井ぶどう）に限定されていた。今後は、地元企業や地域住民との連携を強化し、地域全体での関与を広げていく必要がある。これにより、那須塩原市ならではの背景やストーリー性を持つ、付加価値の高い製品づくりにつなげる。

##### 2. 販売チャネルの拡張

本事業ではECサイト中心の販売であった。実物を確認できないなどオンライン購入への不安の声も一部で確認されたため、今後は実店舗や地域拠点での販売機会を創出し、より幅広い層へのリーチを図る。

##### 3. 製品体験機会の創出

EC販売のみでは、手触りや色味、着用感といった体験価値を十分に伝えることが難しく、特にTシャツ価格を理由に購入を見送るケースも見られた。今後は、製品を実際に体験できる機会を設け、価値を実感してもらう仕組みが求められる。

##### 4. PR手法の改善

本事業では、オウンドメディアやサステナブル系メディアを中心に情報発信を行い、関心の高い層へのリーチを図った。一方で、事業の持続性に向けたマス層へのアプローチも必要である。今後は、イベント出展やマス層へも届くメディア等を活用し、より広範囲への発信を強化する。